

テクノロジー諮問委員会（第8回）

議事要旨

日時：2017年12月19日 8:00-9:15

場所：組織委員会虎ノ門オフィス役員会議室

議論内容（委員の主な意見）

「テクノロジー諮問委員会として提言書のとりまとめについて」

・メッセージ・フィロソフィーを、一言で言い表せるようなキャッチーなキーワードで表現できないか。テクノロジー諮問委員会の8回目の議論として、これまでの議論の積み重ねの結果に加え、伝えるべきコンセプトが伝わっているか、分かりやすいメッセージの発信を提案したい。

第1章：大会で可視化すべきメッセージ・フィロソフィー

第2章：ソフト・レガシーの観点

第1回のアイディアソンではスポーツ×テクノロジーとして実施。

第3章：インフラ・レガシーの観点

競技映像は放送局しか使用できない。組織委員会しか作れないアプリケーションという意味で、オリンピックのトレンドとしてIOCも推奨としている。

車椅子のアクセスマップについてはベビーカー利用者にとっても有益であるが、メンテナンスのための費用を捻出するのが難しい状況。

防災・減災のレガシーについては、内閣官房でも取り組まれていると認識している。

3つの観点からインフラ・レガシーの観点を把握する。

・非常に良い取組だと思う。Wi-Fiのように技術諮問委員会のような場でも議論になるようなものについては、他の取組と並行して実施することが難しいため各テーマについて若干重複するのはある程度しかたないところもあると思う。テクノロジー諮問委員会において、議論のかなりの部分をWi-Fiに使ったことは事実である。

・基本的にテクノロジーは技術面で話が固くなりがちであるが、若干柔らかい言葉を使用することによってバランスがとれると思う。「最先端でなければ戦えない、(でも)人にやさしくなければ意味がない。」であれば、合点がいく。例えば、「人にやさしい」→「テクノロジーは私をときめかせる」に繋げることができる。

・人間の記憶に残るよう3つ大きくフレーズをあげて、その詳細を書くという方が、バランス的には良いと思う。自分にとっての社会やユーザー視点のワーディングを意識した感動の意味合いのキーワードを入れた方が、好ましいと思う。こういうふうに変わり、日本が世界に色々なものを発信できる、というイメージを抱くことができるようになると良いのではないかな。

・つながる、つつみこむ、というのをキーワードにすればよいのでは。なるべくメッセージは少ない方が良いと思う。つながる、ひろがる、わくわく等。感情と技術の行為が掛け算されるようになるのではと思う。擬情語と擬態語などの組み合わせをすると良いと思う。

・日本は技術国というイメージがあるので、期待感が大きいと外国人には思われているように感じる。期待値をテクノロジー諮問委員会でまとめるのは良い。

・グローバルな観点があればより良いと思う。

第1章の3点はすべて横串の話なので、各論をまとめて各章にする構成にした方がすっきりすると思う。各論の構成についてはスタジアム内での観戦の話、スタジアム外の話、交通の話、防災の話の4つがあり、個人的にはその4つで良いと考えている。

第2章に移る。顧客IDのアーキテクチャについてはかなり実装が進んだのではないかな。大会が終わった後の話とモノ作りのことを考える必要がある。

第3章に移る。データのレガシー化も考える必要がある。

「大会後のスポーツ振興レガシー」がそこに該当すると思う。

時間軸と空間軸は面白いと思う。できればレガシーを考える方が良いと思う。

時間と空間をこえれば、グローバルなメッセージ感が出ると思う。

Wi-Fiについてはぜひメッセージに入れていただきたい。具体化できるのは公共交通としても、公共交通をはじめとするオープン化すべきデータを検討した方が良いと思う。

今後の対応

・1月中をめどにドラフティング（第0.1版）を事務局で作成することを予定している。

これまで時間の都合もあり総長、副事務総長に陪席いただく機会がなかったが、提言書については2月末から3月初旬に最終報告会の形で総長、副事務総長に陪席いただく形を考えている。